

## 第3回あいち国際戦略プラン検討会議記録

日時：2022年10月25日（火）11:04～12:44

場所：愛知県庁本庁舎3階特別会議室

開催方法：対面及びオンライン

出席者：出席者一覧のとおり

### 1 開会あいさつ

<木俣国際課長>

それでは、ただいまから第3回あいち国際戦略プラン検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。座長に進行を引き継ぐまで私が司会を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。早速ではございますが、会議の開催に当たりまして、鮎京座長から一言ごあいさつをお願いいたします。

<鮎京座長>

皆さんおはようございます。前回の会議以降、委員の方々には、事務局の方にあいち国際戦略プランの取りまとめに当たり様々な意見を寄せていただきました。そのことにまずは何よりも感謝を申し上げたいと思います。今日が最後のあいち国際戦略プラン検討会議ということになります。その意味では、本日事務局から提案される素案、内容につきまして、委員の方々からご意見をいただくのは最後となりますので、どうか率直なご意見を寄せていただきたいと思います。お待ちしております。

<木俣国際課長>

ありがとうございました。それでは資料の確認をさせていただきます。本日使う資料ですが、2種類ありまして、1つは概要資料であるA3の資料1。もう1つがA4の本冊、資料2。2種類ありますが、皆さんよろしいでしょうか。

それでは、ここからは鮎京座長の進行でお願いいたします。

### 2 次期あいち国際戦略プランの策定について

<鮎京座長>

はい。それでは「次第2 次期あいち国際戦略プランの策定について」を事務局の方から説明願います。よろしくお願いいたします。

<一井担当課長>

それでは事務局より次期国際戦略プランの案についてご説明をいたします。

お手元の資料1のA3がプランの概要の案、資料2の冊子がプラン本冊の案になります。これらは、7月の第2回検討会議後、委員の皆様へのヒアリングや県庁各局との調整を踏まえ、最終案として取りまとめたものでございます。それでは、A3の概要をもとに、本冊も用いながら、プランの全体についてご説明申し上げます。

まず、プランのタイトルでございますが、「あいち国際戦略プラン 2027」とさせていただきます。

次に、概要の1番上の枠「策定の趣旨」でございます。本冊では1ページに記載がございまして、プラン策定の必要性や位置付け、計画期間等を記載しております。

次に、本冊の3ページをご覧ください。「第1章 愛知県を取り巻く国際情勢」でございます。本県の国際関連施策の方向性を検討する上で参照すべき外部環境につきまして、「新型コロナウイルス感染拡大の影響」、「厳しさと複雑さを増す国際情勢」、「第4次産業革命の進展」、「脱炭素化の進展」、「新たな経済連携協定の枠組」、「SDGs達成への取組」以上の6つの視点で整理をしております。このうち、8ページにおきまして、国際連合地域開発センターが中心となって取組を進めています「自治体によるSDGs達成度のモニタリングツール」について、コラム形式で紹介させていただきます。

次に、概要の上から2つ目の枠「愛知県の現状」をご覧ください。ここでは、グローバル人材の育成、外国人材の活用、魅力の発信、産業の発展の分野ごとに、本県の強みと課題について現状を記載しております。本冊では、9ページから「第2章」としまして、統計データ等を用いながら記載しております。

次に、概要の上から3つ目の枠「目指すべき愛知の姿」をご覧ください。本冊に目を移していただきますと、「第3章」としまして16ページから18ページに渡って記載をしております。ここでは第2章で述べました本県の「強み」を活かしながら「課題」を克服することで、「時代に即したグローバル人材の輩出」、「外国人材の活躍による地域の発展」、「愛知ならではの魅力の認知による愛知のブランドの確立」、「愛知型成長モデルによる産業の発展」といった4つの姿と、それらが相互に良い影響を与えながら進展することで、「世界と行き来するヒト・モノ・カネ・情報により成長を続ける愛知」といったものの実現を、本プラン策定から概ね10年後の目指すべき地域像としてお示しさせていただきます。

次に、概要の一番下の枠「目指すべき愛知の姿を実現する戦略と施策」をご覧ください。ここでは、上の枠の4つの「目指すべき姿」に対応する形で、4つの分野別戦略の柱と、全部で12のそれぞれの施策の方向性をお示ししております。そして、これらの施策を展開する際に特に留意すべき点を、横串の「横断的な視点」として2つ記載しております。

まず横断的な視点について触れさせていただきます。

1つ目の視点は「ウィズコロナ・アフターコロナの国際社会の変化」です。新型コロナウイルスの感染拡大は、移動の制限が伴い、人々の行動や考え方を変容させました。オンライン交流の垣根が低くなる一方で、対面交流の重要性が改めて認識されるなど、交流の手法を適切に使い分けて実施していく必要があると考えております。また、新しい生活様式に対応した社会経済の構築が求められる中で、海外の先進的な知見を取り込むことがますます重要であると認識をしております。国際関連施策を実施するに当たりまして、こうしたことを念頭に踏まえ、施策を柔軟に展開してまいります。

2つ目は「変化する国際情勢における海外地域との交流」です。厳しさと複雑さを増す国際情勢の中、委員の皆様からは、相手との信頼関係の醸成、「友人」と呼べる関係性を築いていくことの重要性についてご意見をいただいております。地方政府間の交流により信頼が生まれることで、民間レベルの交流の促進も期待できます。本冊の20ページから21ページにかけては、本県の提携先を載せておりますが、こうした地域に加え、大学や専門機関などとも連携・協力関係を築き、多彩な交流を図ってまいります。

それでは、分野別の戦略ごとに、主なトピックをご説明させていただきます。ここからは、本冊において説明をさせていただきます。

22 ページをご覧ください。まず、戦略の柱の 1 つ目「若者のグローバル人材としての育成（国際性×創造性）」でございます。ここでは、施策の方向として「英語力、コミュニケーション力の育成」、「国際感覚の醸成」、「イノベティブな人材の育成」を掲げ、事業を展開してまいります。例えば、学校教育の現場では、引き続き県立高校における英語教育の拠点校を設け、重点的な英語教育に取り組むとともに、拠点校と他の高校との連携により、全県的な英語力の底上げに取り組んでまいります。また、23 ページの一番下になりますが、本県と複数の提携先地域の大学生・高校生がオンライン上で一堂に会し、課題解決に向けたグループワークを行う事業を、国際課において新たに実施したいと考えております。

その他、アメリカ、シンガポール、フランス、中国、イスラエルの大学やスタートアップ支援機関等との連携・協力のもと、イノベティブな人材育成のための事業を実施してまいります。

次に、戦略の柱の 2 つ目「仕事・生活の充実による外国人の活躍、定着の促進（海外の知識×地域の力）」です。ここでは、施策の方向として「外国人留学生の受入、活躍促進」、「外国人材の就業、起業促進」、「外国人も住みやすい地域づくり」を掲げ、事業を展開してまいります。国際課の事業としましては、27 ページ中段から 28 ページにかけて記載がありますように、留学生の受入支援、留学生の地域での活躍促進について、引き続き取り組んでまいります。現在、アジア地域の留学生を対象にしている受入事業につきましては、対象地域を全世界に広げ、「愛知の産業グローバル化を支える留学生受入事業」として実施いたします。その他、外国にルーツのある生徒の可能性を引き出す学校の設置の検討や、外国人児童生徒への日本語学習支援、県民の意識醸成などにも取り組み、外国人にとっても住みやすい地域づくりを推進する事業を実施してまいります。

次に、戦略の柱の 3 つ目「愛知ならではの多様な魅力の発信（伝統×最先端）」です。ここでは、施策の方向として「愛知ならではの魅力を活かした外国人旅行者の誘致」、「国際イベントの誘致、活用」、「国際交流拠点としての機能強化」を掲げ、事業を展開してまいります。来月 1 日に開園するジブリパークや、2026 年のアジア・アジアパラ競技大会開催を見据えまして、アジア各国はもとより、欧米豪州も対象にプロモーション活動などを実施します。35 ページでは、2005 年の愛知万博の「一市町村一国フレンドシップ事業」から続く県民の国際交流についてコラム形式で紹介させていただいております。地方自治体の国際交流活動は、信頼関係の醸成やパブリック・ディプロマシーの観点からも重要であると考えております。2026 年にはアジア・アジアパラ競技大会が開催されることから、一市町村一国フレンドシップ事業やオリンピックの「一校一国運動」などを参考に、参加国と県内市町村や地域団体との交流事業の促進を進めてまいります。その他、2025 年の開業を目指す愛知県新体育館は、質の高い観戦・鑑賞体験ができる施設整備を図るなど、イベント・コンベンション施設の充実にも努めてまいります。

次に、戦略の柱の 4 つ目「愛知型成長モデルによる産業の国際競争力強化（モノづくり×デジタル化）」です。ここでは、施策の方向として「イノベーションの創出」、「国際ビジネスの拡大支援」、「外国企業等の誘致」を掲げ、事業を展開してまいります。2024 年の開業を目指す STATION Ai におけるスタートアップの総合支援や、海外スタートアップ支援機関との連携・協力による事業を実施いたします。

また、39 ページでは、「STATION Ai プロジェクト」をコラム形式で紹介させていただいております。この中では、産学官の連携による新たなビジネスモデルの創出などにも触れており、例えば、持続可能な新しい農業イノベーションの創出に向けた取組なども行ってまいります。その他、国内外で開催され

ます見本市や、展示会を活用した海外販路の拡大支援なども着実に実施してまいります。

次に、本冊の43ページからは、国際戦略を進めていくに当たっての進捗管理の方法などについて記載しております。県庁各局は本プランを踏まえながら、それぞれ国際関連施策を進めていきます。国際戦略推進本部は、事務局を国際課が務め、毎年各局の進める施策の実施状況を取りまとめ、適切な施策の推進に努めてまいります。

以上、事務局から次期国際戦略プランの案についてご説明させていただきました。

### 3 意見交換

#### <鮎京座長>

それではここで、プランのご説明いただいた内容につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。今後のプランの推進、施策の実施に向けた助言でも結構でございます。

大変恐縮ですが、時間の都合もございますので、お1人5分程度でご発言いただければと存じます。それでは名簿に基づきまして、まず遠藤委員よりお願いいたします。

#### <遠藤委員>

はい。ありがとうございます。

事前説明の時に冊子を拝見しまして、まず当センターで開発した「SDGs モニタリング」を掲載していただきましてありがとうございます。これは日本で初めて地域のSDGs達成度を表現できるようにし、オンラインで公開しました。ぜひこの国際戦略プランのいろんな施策の推進や、愛知県が国際化の視点でどのような強みがあるかといった分析などにも活用していただければと思います。

それと、これもお礼のような形になりますけれども、つい1週間か2週間前に留学生を積極採用する企業紹介の愛知県のウェブサイトがオープンされました。1回目の会議での「当センターにインターンで来た学生さんが県内での就職先を見つけるような、そういった情報がなかなか見当たらない。」といった発言をさせていただきましたが、そういった企業がどんどん増えてくると非常にありがたいなと思っております。

私の方からは「(2) 海外の知識×地域の力」のところ、主に27～28ページの部分に関してコメントさせていただければと思います。留学生の定着とか高度外国人材の呼び込みというのは今後の非常に重要なポイントだと認識しています。事前説明の時も申し上げましたが、呼び込みを進める上で、愛知にはいろんな強みがあり、特に外国人の方が研修あるいは視察をする魅力的なものが愛知にはたくさんあるのではないかと、この地域で仕事をしていて感じる人が多いです。東京などで研修をすると生活そのものが大変ですし、途上国から見ると、東京はグローバル都市としてスケールが大きすぎるということもあります。そういう意味で、愛知というのはバランスが取れていて、企業の立地ですとか、地域づくりでも各自治体が非常にいろんな施策を充実させていますし、イノベーションや環境などと合わせて、研修や視察でいろんなことを学ぶことができる素材が多いということを外国人の方に発信してはどうでしょうか。研修や視察の機会を提供するのも1つ、留学生の定着や高度人材の呼び込みに貢献するところがあるのではないかなと思います。

我々国連地域開発センターが50年前に設置された時、いわゆる日本が高度経済成長の時も、この地域が産業、農業、環境などいろんな意味でバランスがとれた地域なので、そういったことを学ぶのに適し

ているということで、この名古屋に国連地域開発センターができました。センターができて 10 年 20 年くらいは、途上国の人がかかり来られていたんですよ。

今もそのポテンシャルはあるのではないかと考えています。この地域には途上国にとって学べることやノウハウがたくさんあると思います。大学も多くありますし、そういった機関と連携して、その中で、我々国連地域開発センターにも、海外とりわけ途上国とのネットワークがありますので、途上国の方や海外の企業の方の将来的な愛知県への進出というところをお手伝いできることがあれば良いなと考えております。

この前も Aichi Sky Expo で実施された SDGs のイベント (SDGs AICHI EXPO 2022) の時に、名古屋市立大学の先生から、グループの留学生を受け入れてくれないか、あるいは受け入れる企業を紹介してくれないかというような話がありました。その話のポイントの 1 つとして、日本語が話せない学生を受け入れるところが非常に少ないと言われました。たくさん見るものはあるんですけども、言語の部分は課題を克服しながら取り組まないといけないのではないかと考えております。

ここまで、1 巡目の私のコメントとさせていただきます。ありがとうございます。

<鮎京座長>

ありがとうございます。そうしましたら、続きましてクマール委員をお願いします。

<クマール委員>

はい。おはようございます。

今回の計画全体を見ると、やはり時代をよく理解して、これからの方向性なども理解して、作成されているなと感じました。

その中で、新しいことをやろうとするのであれば、なるべく成功例を作ってその成功例をもとにして拡大するとやりやすいと思います。その辺りで私どもにお手伝いできる部分があれば、ぜひお手伝いをさせていただきたいと考えております。特に 19 ページからの 4 章では、これからやりたいことについてたくさん書いてあります。中でも私が特に強調したい点は、これは我々が新型コロナウイルスのおかげで学んできたことなのですが、例えば、以前お聞きしたあいちリーディングスクールの話だとか、提携関係地域等との連携など、たくさん交流の話が出てきますが、これまでは対面的での交流がほとんどだったところ、これをぜひハイブリッド形式、オンラインを活かした形にさせていただきたいと思います。

また大学として悩むことの 1 つに、学生がある程度マチュア (年配) であれば海外に送ることはそれほど難しくはないですが、若年層の学生などは海外に行かせるとき、あるいは日本で受け入れるときにはいろんな負担が出てきます。資金面、その準備、治安、時間などいろいろあるわけですが、そこにオンライン形式を導入することによって、非常に効率よく実施できる部分があると思います。

言うまでもありませんが、もちろん対面のできるの方が素晴らしいことには変わりはありません。しかし、いろんな国との連携の可能性、それから短時間で実施できる可能性などを考えると、ぜひオンライン形式を積極的に導入していただけるように考えていただければなと思います。

それから「愛知ならではの」という話が出てくるのですが、私から見ると、また統計から見ても、やはり愛知というのは産業基盤の中心的な役割を果たしています。また、アジアの若者を見るとそういったモノづくりに関心が高いわけなんですね。それから、南アジア、インド、スリランカ、バングラデシュ

などの地域を見ると、彼らは数学が得意だと言われており、以前この検討会議でも発言したとおり IT 関係などにも非常に強い若者が多いので、「愛知ならではの魅力」を考えると、彼らに対してそういった辺りもイメージして情報発信をすれば良いのではないかなと思います。

また、外国人を日本に受け入れるときの課題は大分わかってきております。私自身が日本の基盤から一旦離れスリランカに戻っているのは、スリランカ初の日系の大学において、日本でこれまでわかったデータ、外国人を受け入れる際の様々な課題を克服するため、現地で若者を養成して、その後日本で活躍できるように派遣する目的のためです。個人的には、愛知県で彼らの活躍の場があれば、喜んで送らせていただきたいなと思います。

これから提携関係の地域とオンライン交流を行うときに、私がぜひその中に入れていただきたいのはインターンシップ形式です。通常インターンシップは対面的にやるものですが、オンラインでもやれる部分が十分あると思います。ですので、提携関係にあるアジア、南米、ヨーロッパなどいろんな地域とインターンシップも視野に入れたオンライン形式の交流を行うと、ぜひ愛知で働きたい、愛知に住みたいという人々が多く出てくると思います。

交流の効率を考えると、オンライン形式を中心とした様々なことがこれから可能ではないかと思えます。私どもにお手伝いできるものがあれば、ぜひお手伝いをさせていただきたいということで発言させていただきました。

以上です。

<鮎京座長>

はい。ありがとうございます。それでは続きまして増田委員お願いします。

<増田委員>

はい、ありがとうございます。

まず、冊子の方なんですけれども、前回から比べて特に良いなと思ったのは、各章ごとにコラムが差し込まれていまして、コラムという形で読みやすくしたというだけではなくて、やはりこのプランにおける方向性が選ばれたテーマですごく象徴されているなと思いました。なので、忙しい方でプラン全部を見るのが難しい場合、このコラムだけを摘み読みしても全体の方向性がよくわかるような仕上がりになっていると思いましたので、非常に良い試みだなと思います。

それを踏まえて、私からコメントさせていただきますのは、34 ページにあります「国際イベントの誘致、活用」です。こちらの主な施策として、スポーツのイベントであるとか、MICE の誘致、いろんな国際イベントの活用ということが書かれており非常に良いと思うんですけども、1 つ申し上げますと、そういった 1 回限りのイベントを大きくやるだけではなく、海外へ向けて愛知の立ち位置を象徴するような国際イベント、できれば毎年継続的にできるようなイベントを誘致されるなり、創出していただくと良いのかなと思います。それがビジネス的なイベントであればさらに経済効果も生みます。

海外にはいろんなビジネスの展示会、見本市があるのですが、一種のブランドになっている展示会があります。例えば有名なところだとカンヌの国際映画祭がありますね。あれは映画祭という 1 つのイベントなんですけれども、そのバックヤードでは必ず映画のビジネスの商談が開かれております。カンヌの映画祭の期間には、もちろんメディアや映画界の人もありますけど、その裏で映画の取引が行われて

います。街全体が、その 1 週間は、映画関係者が世界中から集まってくるということで、街のブランドとビジネス的な要素が上手く合致している。そういうことがカンヌという街の特徴になって、競争力になっているということがあります。

愛知もいろんな側面があるので、なかなか絞り込めないところはありますけれども、例えば「AEROMART NAGOYA」というのは、エアロマートという世界的な展示会を 2 年に 1 回名古屋でやり、別の年にはフランスでやるということで定着しています。こういう国際的なイベントをもっともっと増やしていったら、その産業に携わる人が「愛知といえばあのイベントがあるね。」というように、よく知られているイベントを増やしていけば良いのかなと思いました。

それから、38 ページから「愛知型成長モデルによる産業の国際競争力強化」ということで「イノベーションの創出」と「国際ビジネスの拡大支援」と「外国企業等の誘致」の 3 つが並んでいます。この 3 つの中で言いますと、やはり「イノベーションの創出」の核になっている STATION Ai についての施策が非常に多いなと思います。こちらは非常に計画的、戦略的に実施されていますので、実際にオープンした時には、今まで積み上げられてきたことが STATION Ai に集約して連携していくような段階になると思います。その時に、もちろん愛知県だけではなく、関係しているエコシステム全体としてこの STATION Ai を盛り上げていくような動きを今から作っていただきたいと思います。それから「国際ビジネスの拡大支援」のところですが、これは先ほども申しましたように、見本市や展示会というのをもっと活用したら良いのではないかと思います。具体的に、フランスで行われている「Global Industrie」という大きな総合見本市があるのですが、それを Aichi Sky Expo を活用して実施するという計画が書かれております。せっかく誘致されたので、そこを核にして新しいビジネスの機会を作っていただければと思います。

それから「外国企業等の誘致」に関して、我々ジェトロもいろんな外資企業からの相談の対応をしているのですが、今年度に入って、問い合わせの中身が非常に愛知ならではのものになっています。例えば EV 化に向けた電気自動車系の案件であるとか、半導体とか、国際的に不足しているモノづくりの基幹になるようなものを愛知で作りたい、もしくは愛知の企業に販売したいというような目的意識がはっきりした案件が増えてきております。これは世界的ないろんな部品の不足だとか、米中関係の悪化とか、いろんな要素があると思うのですが、やはり対中国のリスク対策の 1 つとして「アジアでモノを作るのであれば日本」という選択肢が、コストの面でも以前より妥当になってきているという背景があると思います。こういった期待をチャンスととらえまして、実際に企業をモノづくりという意味でこの地に着地させるために、さらに詳しい情報提供であるとか、実際に工場を取得する手続きの際にインセンティブを付けるだとか、何かそういう具体的な施策も今のうちに進めていければ良いのではないかと思います。

ありがとうございます。

<鮎京座長>

ありがとうございます。それでは続きまして山本委員お願いいたします。

<山本委員>

よろしくお願いたします。

私も先ほど増田委員がおっしゃったように、愛知県の底力、体力及び実力などを上げる必要があると考えます。新型コロナウイルスの情勢や国際情勢、特に物流がズタズタになってしまったことを考えますと、自分のところで何とかできる根っこを持っておかないといけないと思います。限られたパイの中でそれをやっていくというのはなかなか難しいので、外国人の活用が非常に大切になってきます。留学生はさておき、今までの外国人の活用方法を見ていますと、労働力が足りないときに入れて、余ったらもういいというように補充的な形で都合良く使っていたと思います。これからは、そういったことはもう通用しなくなるというか、むしろ通用させるべきと考えます。

きちんと受け入れて定着させる。その定着は永久的なものかもしれないし、長期的なものかもしれない。この2つを考えたときに、やはり子弟の教育ということが非常に重要な役割を果たしてくると思いますので、今みたいに外国語の学校だけで何とかしろというのはなかなか難しくなってくると思います。その辺りのところをきちんと考えていただきたいと思います。

その対策の1つとして、43ページの「初期日本語教育に取り組む市町村数」を8市町村から20市町村に増やす計画があります。先ほどクマラ委員がおっしゃったように、最近、私がひしひしと感じているのは、日本に来る前に現地で日本語教育を行って送り出すというシステムがすごく充実してきていて、来日外国人の日本語レベルが日々上がっているということです。今までは中国や韓国、ベトナムだけという感じでしたが、最近はその他の国、例えばインドから来る学生も非常に上手な日本語を話したりします。

一方で、日本語ができないまま日本に来る方もすごくたくさんいます。そうしたときに、初期の日本語教育というのはどんどん充実させていくべきだと思います。

もう一方の極にあるものとして、日本人のコミュニケーション能力、英語のコミュニケーション能力の向上が挙げられます。これは愛知県の学校等で非常に力を入れていて、とても良いことだと思っています。ただ、それで満足するのではなく、将来的にその先に本当に高度なグローバル人材を育成したいのであれば、専門的なことも英語で議論できるような日本人を高校・大学だけではなく、もう少しいろいろなところで指導するような形で教育できれば良いと思います。そうすることによって外国人材も活用できるし、日本人の国際力や競争力も上がってくるものと思います。

以上が大きなことですが、あと小さなことを2つお願いします。

すごく些末なことですが、19ページのところで、下から2番目に「海外の先進的な力を取り込むこと」のところに「新しい生活様式に対応した社会経済を構築する」ということが書かれています。非常に良いことですが、もう少し具体的な案がないと「単に外国のことを調査しました、そしたら海外ではこんなことをしていました」という調査報告だけで次期プランが終わってしまうと思います。もう少し具体性が欲しいなと思います。それが1点。

もう1点は38ページのSTATION Aiですが、これも良いものだと思いますが、私も含めて余りにも認知度が低すぎだと思います。少し宣伝の仕方が下手なのかなという気がしていますので、もっと県内にも国内にも宣伝した方が良いと思います。

宣伝ということに関連して、留学生は「愛知のものづくりを支える留学生受入制度」で受け入れていただいて非常にありがたいです。インターンシップも実施いただいて、とてもありがたいです。今度、その発信力・発展性を考えたときに、愛知県として、海外に向けてこういう枠があるから応募してくださいという形だけではなく、留学生自らの提案により応募してもらい、合格したらそれを実現するため



にこれだけのお金や設備を貸与しますよという形も考えてはいかがでしょうか。単なる海外の観光客ではなく、ある程度専門的な視点から愛知県を見てもらい、専門的分野に関する発信力のある人を誘致していく。例えば「1年間で滞在費として500万、600万支給します。その代わりにこういうことについて、きちんと調べて発信して、フォロワー数やコメント数はこれくらいにしてくださいよ。」という形でやっていく。留学生を見ていて思うのは、やはり仲間の発信力、仲間とのつながりということは非常に大事だということです。仲間の言ったことは割と信じますので、ぜひそこを使っていたきたいなと思います。

以上です。ありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございます。それでは続きまして、横山委員をお願いします。

<横山委員>

今朝すべて読みまして、今回はクリティカルシンキング、つまり批判的な思考で読んだのですが、せっかくここまででき上がった中で、ちょっと出ていないポイントを話したいと思います。昨日も積極的に政府が覆面介入をしまして、この円安というものがどれだけ続くのかということは、まさにVUCAの時代なのですが、それによって国際戦略というものが大きく変わってきてしまうとだと思います。「厳しさと複雑さを増す国際情勢」や、「第4次産業革命」、「脱炭素」、この辺りの話は間違っていないと思います。ただ、超円安の影響で大きく変わってくるのが、すでにインバウンドの増加によって百貨店等は売上が増えてきたということです。つまり、外国人にとって、とても日本が安いという時代になっており、留学で言えば、日本から海外へ出るというのはこれから非常に大変だと思いますが、海外から日本へ来るという人たちにとってみると日本は非常に留学しやすくなったという時代ですよ。

ただ働き手という観点で言うと、日本から稼いだお金を自分の国に送金するときには、実は非常に円の価値が下がっているのです、働き手が来なくなるのではないかと。さらに、先ほど増田委員が少しお話をされましたが、海外に出て行った愛知県の企業が、これからこの円安局面で戻ってくる可能性があるという話をいろんなところで聞きます。

つまり、愛知県のモノづくりを進める上で、円安というのは良い面と悪い面があると思いますが、せっかく国際戦略として書くので、円安による影響というところは入れておいた方が良いのではないかと思います。どこを見ても実は書いてないんですね。半年間でこれだけ円安が進み、1ドル150円を超えた時に政府が覆面介入を行うということは、たぶん政府として1ドル150円を超えるとかなり赤字が溜まっていくという認識なのだと思います。また、企業の発表を見ても、この円安局面でかなり赤字が増えてきているということがあります。あえてこの最後の時に言うべきことではないかもしれないのですが、この超円安時代にどう国際戦略をやっていくかというところは、どこかに入れておいた方が良くないかなという感じがいたしました。

それと、35ページですね。

これは私のほうが、パブリック・ディプロマシーの話をして、それをに入れていただいたということで、感謝申し上げます。ちょっと細かいのですが、パブリック・ディプロマシーの説明のところ、「文化広報外交」とありますが、私は「広報文化外交」でずっと訳しております。ネットで調べてみて

も、やはり「文化広報外交」という言葉はなくて、これは少し調べていただいて修正いただけるとありがたいと思います。

あと愛知の観光にいろいろと携わっている関係でジブリパークの内覧会を見てきたのですが、「ジブリパーク」という言葉と「愛・地球博記念公園」という言葉はどう使い分けているのかなと思いました。もしかすると、世界的に見るとあのエリア全体が「ジブリパーク」という話になってしまうのではないかと。そうすると国際的に齟齬があるので、この辺の使い分けについて整理した方が良くないかなと思いました。

それと、先ほど山本委員が広報の話がされたのですが、日本広報学会が先週ありまして、それに参加したところ、メタバースの可能性についての発表が初めて出てきました。先進的な企業はメタバースを広報手段の一環として活用するという動きが出てきつつあります。メタバースについては第2回会議でもお話をしました。その時は、国際間の交流の中でメタバースを活用した方が良いという文脈の中で話をしたのですが、先ほどの広報という観点からも、やはり愛知県としては、メタバースに関してなるべく早く調査をして何らかの接点を持ち始めておいた方が良いでしょうと思います。今急速に日本広報学会での研究も進んでいるようですので、ぜひ、メタバースについても検討いただきたいと思います。

あとイベントを継続的に実施された方が良いという話を増田委員がされたと思います。私はあいち観光戦略推進委員会の副委員長もやっております、その時も同じ話をしたのですが、名古屋市が中心だからかこの中に書いてないもので、名古屋まつりというものがあるのが毎年10月にあります。このお祭りを積極的に海外のプロモーションに使っていくべきじゃないかと思います。たまたま今、岐阜のお祭りで木村拓哉さんが来るということで非常に話題になっております。あいち観光戦略推進委員会において私が話したのはその話題が出る前ですが、ちょうど大河ドラマで松本潤さんが徳川家康役を演じるということで、嵐はアジア各国においても非常に人気であるということがありますので、例えば名古屋まつりに徳川家康役で松本潤さんに来ていただくことによって世界の注目を集めることができます。以前、綾瀬はるかさんが「八重の桜」で大河ドラマの主演をやられて、今でも彼女は毎年毎年その時の衣装を着て会津まつりに出続けているということがあります。松本潤さんもそういう形で出ていただければどうか。しかも、キャストを見てみると世界的にも有名な方々が今回「どうする家康」に出られます。新しく仕掛けるというよりは、そういった既存のものに新しい要素を加えることによっていかに新しい価値をつけていくことが大事なのではないかなと思いました。

非常に良くできていると思いますけれども、少しくリティカルシンキングの視点からコメントさせていただきました。以上です。

#### <鮎京座長>

ありがとうございます。

先生が言われた「ジブリパーク」と「愛・地球博記念公園」の関係というのは、もう少し言っていただくと、どういうことでしょうか。

#### <横山委員>

ジブリパークというと、日本語に訳すと「ジブリの公園」なんですけど、実際には愛・地球博記念公園の中にジブリパークがあるわけですよ。どっちかということジブリミュージアムというものが点在して

いるような感じなので、海外の人にPRするときに、どう整理をつけていくのかということ。公園をパークと言いますよね。パークが2つあるような感じだと、実際に行ってみて感じましたので、それを海外の人がどう思うのかなと思いました。愛知県さんとしてどういう整理つけていらっしゃるか教えていただきたいです。

<鮎京座長>

では、後ほど事務局の方からわかる範囲でご説明いただくということにしたいと思います。  
それでは続きましてグレン委員をお願いします。

<グレン委員>

おはようございます、よろしくお願いします。

まず概要について、高度外国人材の記載内容に関して言葉を変えていただいた点、良かったと思います。本当にありがとうございます。少し気になっていることは（目指すべき愛知の姿の部分に）「カネ」という言葉です。個人的にはちょっと下品かなと心配になるのですが、皆さんはどう思っているのか、お聞きしたいです。

つづいて20ページの7行目で、「文化、教育、ビジネス」とありますが、その中にできれば「観光」も入れて欲しいと思います。やはり観光は愛知県にとっても重要なものになると思いますから、ぜひ入れて欲しいです。

あと31ページ、大型プロジェクトについて書いてあるところで、5行目に「外国語ができるボランティアを募集して育てる」とありますが、これはどうしてもボランティアでない駄目ですか。ボランティアだと言い方が少し悪いですけど、時間とお金に余裕がある年配の方が多くなります。若い人が、ボランティアで参加するのは難しいです。またほとんどの場合、私たちは、人のスキルに対して報酬を支払いますよね。例えば、医者、水道屋さん、Webデザイナー等々。しかし、外国語が話せる、外国語でコミュニケーションができる人たちに対してはボランティア。スキルとはみなされていないような感じがします。それは少し不思議です。Webデザイナーをボランティアで募集はしませんよね。飛行機のパイロットも同じです。それを考えるとこれから愛知が、若い人の外国語のスキルを伸ばして、そのスキルをちゃんと職業やビジネスとする機会を与えることを考えた方が良いのではないかと思います。強い愛知県、賢い愛知県を作るために、そういったことを考えた方が良いと思います。

最後に海外向け情報発信についてですが、何回も言ったかもしれないですけど、やはり外国人にわかりやすい、正しい情報を伝えて欲しいと思います。さっき話に出たジブリパークについてですが、パーク内には英語での説明がゼロに近いです。何も英語の説明がないんです。また「ジブリパーク」という名前から、どうしてもテーマパークというイメージが世界的に強いみたいなんです。皆さんが本当に「ジブリパーク」をテーマパークだと思って来ると、少し期待外れになってしまうかもしれない。情報発信には、少し気をつけて欲しいと思います。

以上です。ありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございました。それでは山田委員よろしくお願いします。

<山田委員>

はい。今日はちょっと県庁まで行けずに申し訳ありません。

全体を通して読ませていただきまして、これまでの分析で「愛知県を取り巻く環境」、ここをよく押さえて戦略まで非常に上手くまとめられて良い資料だなと思って見ておりました。

20 ページを中心に少しコメントさせていただこうと思います。4つの重点戦略があって、この4つそれぞれが全部つながっているということ意識して書いていただきたいということを要望してきて、その内容がつながっていて、それが活力のある、要は仕事を作ることができて自立的な発展ができる愛知県ということに、全部がつながってくる施策になっていて非常に良いなと思いました。単純な国際化とか、英語を話す人をたくさん作るだとか、そういった方法論の話ではなくて、目的の自立的な発展ができる愛知県につながってくる施策であったと。それは、この4つの中に書かれていて、2つのことを掛け合わせて、「国際性×創造性」であるとか、「海外の知識×地域の力」であるとか、こういったところが盛り込まれていて良い内容だと思いました。これが全体感です。

個々のところですけども、私も産業界にいるものですから相手と戦うということに慣れてきました。Z世代の人に言わせると戦って何になるのと言われるわけですけども、我々はやはりグローバルにインターネットでつながった世の中で戦っていますから、相手に対して勝たなければならないと思っております。その時に、この施策、非常に良い施策なのですが、やはり同じようなことを言っている地域というのは世界中にごまんと思えるんですね。そうすると、この戦略の施策の1つ1つが、ある程度愛知県らしい尖ったものである必要があるというのが、もう1つ感じた印象です。この尖った施策になっていくようなところのアイデアまで、具体的な施策のところ踏み込んで欲しいなということが、残った時間でやって欲しいことになります。

例えば、方向修正が1個いるなと思ったこととして、先ほど横山委員が言われたことを私も実は言おうと思っていました。この円安という流れは国力を反映していると言われており、今は行き過ぎかもしれませんが、昔のような工場が海外に出て行った時の判断基準である円高には戻らない。なぜならば、工場がもう海外に出てしまっていて、日本の産業はすでに空洞化しているからなのですが、今のこの円安であるならば、日本の労働力が実は安い。もうすでに安いんですね。その割に、OECDの中で、ブルーカラーの生産性がおそらくかなりハイレベル、ナンバーワンかもしれません。一方で、ホワイトカラーの労働生産性というのはおそらく低い。その原因というのは、我々の世代よりも上の人間が、私も含めて、やはり最先端のものに対して日本流を押し付けすぎて、ガラパゴスになってしまって、世界の基準にホワイトカラーがキャッチアップできてないという現状にあると見ています。

だとすると、尖った施策として「若者のグローバル人材としての育成」の部分で、日本の若者とグローバルな最先端企業とをつないで、日本のホワイトカラーを飛ばすということが必要だと思っています。こういった機会を作れるようなプログラムになったら非常に面白いなと思いました。どういう意味かというと、外国の先端企業に直接日本に進出してもらって、安い労働力の卵である日本の優秀な学生を雇っていただきたい。こういうようなものにつながっていくような施策、具体的には人材育成ですけども、こういったものを大学には期待したいなと思います。

ちょっと話がそれるかもしれませんが、3番目の魅力ある愛知っていうところとつながるんですけども、ボランティアの話がさっきグレン委員からありました。日本の文化を英語で説明できないとグ

ローバルでは相手にされません。相手を知るには日本、自分を語れる必要があります。ここはやはり日本人は劣っています。日本の若者が外国の音楽のこと語ったって、そんなものほどこでもダウンロードできますから、そんな話ではない。実は愛知県には有名なお城が多いんですけども、お城を日本語ではなくて英語で外国人に語れるような若者を育てることで、先ほど言った外国のスタートアップだとか、外国のテクノロジーを持った会社が日本に進出してきたときに、英語で日本文化を語れる日本の若者が直接雇われることにつながる。こういうような施策を国として、県としてやってもらったら面白いなと思いました。例えばですけど、お城マイスター。お城を英語で説明できるような資格で、この資格に対してお金をきちんと払う。あいち国際戦略プラン関連事業の予算も 50 億くらいと聞きましたから、そういったものに使っていくとお城マイスターが豊富にいる愛知県の学生、ここは非常に外国人の旅行者にとっても、進出企業にとっても、魅力のある尖った施策をやっている県だなとなっていくかなと思いました。などなどですね、他にも尖った施策をいくつか考えていますので、またいろいろ発表したいなと思います。

私からは以上です。

#### <鮎京座長>

ありがとうございました。

あと私の方から簡単に 2 つだけ申し上げますと、1 つは先ほど増田委員も言われましたけれども、STATION Ai の件であります。愛知県がフランスの STATION F と連携していることはご存知だと思いますが、私どもの愛知県立大学及び県立芸術大学の方でも、フランスのスタートアップと連携をして少し事を起こそうということで、12 月にフランスのスタートアップを専門とする大学の先生を 4 人くらいお招きして、名古屋で国際的な会議をやりたいと思っております。そういう意味では、STATION Ai と STATION F が継続的に連携して、例えばいろんな行事が今後行われると 1 つのきっかけになっていくのではないかという気がしております。

それからもう 1 つは、個別の話ですが 31 ページに「職員の国際感覚の醸成」という問題が出されています。これは項目としては出ているんですが、実際に例えば愛知県の職員の方を外国へ研修に出すということになると、なかなか費用の問題を含めて難しい点もあるかと思えます。やはりこういう国際化を担う主体である県庁の人たちが、能力を高めていくという意味ではこれは大変重要だと思っております。県大、芸大でもこの 2、3 年新型コロナウイルスで外国に行けなかったんですが、それまでは名古屋大学が行う海外研修に職員を混ぜてもらって、いろんなところへ行かしていただきましたけれども、この問題で、私が申し上げたいのは、県職員にいかにしてそういう機会を経験させてあげられるかというのを考えていただければということです。

それで今日、委員の皆様から様々な視点からのご意見をいただきまして本当にありがとうございます。1 つ 1 つのご意見を聞きながら、とても水準の高いご意見が出たと思っています。そこで、佐治国際監始め、事務局の方から今日のご意見について、県としては今後どう考えていくか、発言できる限りで結構ですので、少しご意見をお願いしたいのですがいかがでしょうか。

#### <佐治国際監>

委員の皆様、本当にありがとうございます。

非常に貴重なご意見をたくさんいただきました。私どもは今回、最終回というつもりで会議をやらせていただいているというところは確かですし、プランもその案としてお示しをさせていただいております。一方で、本当にいろんなご指摘もいただいたというところがございます。

この段階で本冊を大きく触るということは、正直難しいと思います。反面、たくさんいただいたご意見に対して、鮎京座長がおっしゃられたように、1つ1つに対してどのように考えているのかということとはもう1度委員の皆様、個々になるかもしれませんが、ご説明させていただければと改めて感じました。その上でどうするかということはありませんけれども、まずはしっかりと委員の皆様のご意見に対して、県が今どのようなことを考えていて、プランの実行場面でどんなことができるのかということも含めて、個々にご説明させていただく機会を設けさせていただければと思っております。

大きな総論のところではそのように考えております。

<鮎京座長>

突然振ってすみませんでした。非常に丁寧なことを考えていただいているようで、ありがとうございます。それで、今回の「あいち国際戦略プラン2027」というものにつきまして、全体としては、事務局の案の方向性を了承するというところでよろしいでしょうか。

<全委員>

はい。

<鮎京座長>

ありがとうございます。

そうしましたら、本日いただいたご意見等は佐治国際監が言われたように、いろんな形でまたご意見を聞きながら、この案の中で部分的な手直しができるところはするというところで、最終案の了承につきましては、事務局と図りながら座長である私にご一任をいただくということにさせていただいてよろしいでしょうか。

<全委員>

はい。

<鮎京座長>

ありがとうございます。

本日いただいたご意見等は事務局で整理し、最後の検討、またプランの推進に反映をさせていただきたいと思います。今日のご意見の中で、理論的にどうするかということとはなかなか難しいとは思いますが、円安という非常に大きな問題をどのようにプランに組み込むかということにつきましても、各委員からまたご意見を伺いながら、事務局の方と考えていきたいと思っております。

それでは今回を持ってこの検討会議は終了となりますけれども、今後の県の国際戦略へ向けたメッセージであるとか、これまで議論してきた中で感じられたこと、策定に当たってのご感想などにつきまして、ご発言いただければと存じます。何回も意見を言っていただき恐縮ですが、せっかくの機会でござ

いますので、よろしくお願いします。

それでは今度は逆順で、山田委員からお願いします。

<山田委員>

こういう形でオンラインでも十分会議ができるなということは感じました。また、私たちは言いたいことを言っただけなんですけれども、県の方々が非常に上手くまとめていただいて、プランができ上がるということがわかりました。こんなもので良かったのかなとは、逆に教えていただきたいくらいですけれども、役割を果たせたのであれば、私としては幸せですね。

それから、あいち国際戦略プランの前回バージョンと今回バージョンとを見比べてということと言えますと、ずっと私が意識してきましたのは、実効性のあること。これを施策に落とし込んでいくということ意識して発言してきました。それを県の方々が上手くまとめていただいたというのが、私の率直な感想になります。

重要なことは方法ではなくて、例えば英語のところで言いますと、英語人材を他の県と比べて英検何級を持つ人をどれだけ育てるだとか、そういったことは、KPIの1つではあるんですけども、所詮は目的ではなくて方法論なんです。英語が話せる人間をどれだけ作ったとしても、使える英語なのか、どういうシーンを想定して育てているか、どんな人間の中でどんな人間を作るのか、そういったデザインがなければ何の意味もないただの作業なんです。そういうものにならないように意識してきましたし、今回はそれを活かしていく方法として、海外スタートアップとの掛け合わせ、この掛け合わせということに踏み込んでいただいたことが、非常に大きな成果だったのではないかなというのが私の感想になります。目的と手段を混ぜない、目的をぶらさないということが重要だと思っております。

以上です。

<鮎京座長>

ありがとうございます。それではグレン委員お願いします。

<グレン委員>

今山田委員が言ったとおりで、同じことを思っています。やはりこのプランを、これからどう実行するかが大切だと思います。同時に、繰り返しかもしれませんが、ビジネスの面においても愛知県を選ぶことのメリットについて考えて欲しいと思います。

以上です。

<鮎京座長>

ありがとうございます。横山委員お願いします。

<横山委員>

3回に渡り、貴重な機会をいただいたと思って感謝申し上げます。

私もいろんな自治体の方と仕事するケースがあるんですが、愛知県の皆さんがプランを上手くまとめられ、また委員の先生方のご意見を取り入れて作られたことに敬意を表したいと思います。ありがとう

ございます。また先生方、ご一緒させていただいて、先生方の発言を聞きながら、自分自身もいろいろ考えを深めることができましたので、改めて感謝申し上げます。

愛知県との関わりは、もともと出身が愛知県で、愛知県の観光戦略というものに2015年から携わってきて、観光領域だけでは狭いなど少し思っていたところに、この国際戦略プランのお話がありまして、そのおかげで全体的に補完することができたと思っております。

1つ自分が今、地方創生というテーマに取り組んでいまして、その講演を今週末するんですけど、その中に出てくる概念として「関係人口」というものがあるんですね。この国際戦略プランの中に関係人口というのはあんまりふさわしくないかもしれませんが、関係人口をこれから地方創生の中で増やしていこうということを政府が今やろうとしています。特に、田舎が大都市圏からの関係人口を活用して地域を活性化していく、という流れが非常に注目をされています。「交流人口」ももちろんそうなんですけども。日頃そういった研究をしたり、実践したりしているんですが、今回この国際戦略プランの検討会議を踏まえて、実は関係人口というのは、この国際戦略プランにとっても重要だと感じました。つまり、かつて留学した人、愛知県で学んだ人、あるいは愛知県にルーツを持っている人。地方創生の関係を研究し始めて半年くらいなのですが、実は国際戦略プランにとっても地方創生における関係人口という考え方が当てはまって、そのような人たちを世界に作るためにはどうすれば良いかを考えなければなりません。そうすると、やはり私が専門としている広報というところが非常に大事になってきて、先ほどのメタバースの活用という話につながっていくのかなと思いました。

この国際戦略プラン検討会議を通して、いろんな勉強させていただいて、新しい気付きを与えていただきまして、関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございます。それでは山本委員お願いします。

<山本委員>

はい、よろしくお願いいたします。

言いたいことを言う委員を始めとしていろいろなしごらみがある中で、フットワーク良くいろんな意見を取りまとめてくださったと思います。非常に感謝いたします。

愛知県というのは、基本的に総合的なレベルが非常に高い県だと考えておりますが、委員は皆、何か尖ったことをしろ、何か愛知県らしいことをしろと言います。私もそれが一番大事だと思いますけど、それを具体化するっていうのは非常に難しいことだと思います。ですが、やはりこれが一番大切ですので、ぜひ何でも良いので1つ見つけて、これぞという特徴のあることを実行していただきたいなと思います。

どうも、3回に渡りましてありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございます。それでは増田委員お願いします。

<増田委員>



私も今回委員を務めさせていただきまして、愛知県とは正直これまで関わりはなかったんですけども、この議論の中で、本当に素材が盛りだくさんで魅力もたくさんあり、それをどう組み合わせるのか、どう表現するのかというところで、非常に良い議論になり、良い仕上がりになったのではないかと思います。いろんな素材を組み合わせた上で、これを実行されるに当たっては、県の中でいろんな部署が関係してくると思うんですね。どんな組織でもそうなんですが、部門が違ってくると、どうしてもその実行において縦割りになりがちです。組み合わせという意味では、例えば、外国人材とスタートアップだとか、観光と農業であるとか、違う分野の組み合わせのアイデアがこのプランにはたくさん入っています。最後の意見でございますけれども、これを実行するに当たっては、部門間、施策間の連携をより一層意識していただきたいと思います。

このプランの中に円安のことをどう表現するか非常に難しいと思いますが、5年間というこの計画の中で1つ方向性として続きそうなことは、日本にいる人は特段円安だからといって大きな変化は感じづらい上、どんどん海外に出て行く動きが少なくなってしまうので、日本の中で世界のスタンダードな感覚が失われていく可能性があるということです。特に若い人が留学等で海外に出て行くことができないことで、そうした感覚がずれてしまうことを懸念します。なので、海外へ出ていくための支援について、学生に限らず、日本企業においてもそういうところがあると思いますので、そこは行政としてサポートしていく必要があるかなと思います。その点だけ申し添えさせていただきます。

ありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございました。それでは続きましてクマーラ委員をお願いします。

<クマーラ委員>

この会議では、以前2回ともスリランカにおりまして、今回はぜひ対面で参加したいと思っていましたが、オンラインでの参加となり申し訳ありません。ですが、オンラインでもこのように参加できるわけですので、ぜひオンラインを活かしていただきたい。

国際戦略プランは、やはりこれまでの愛知を次の段階に持っていくための重要な計画だと思います。グローバル化あるいは国際化というキーワードが出てきますが、それを動かすのは人間なんですよね。それは外国人であったり、従来日本社会で活躍していた人あるいはこれから活躍する日本人であったりするわけです。そこで、特に日本人のグローバル化というものに焦点を当てた企画が、大学や行政等でも結構行われていると思います。以前少し話題となった言葉があります。「Think Globally, Act Locally」という言葉です。グローバルに考えて、ローカルに活動するというような意味ですが、将来を見越してこういったプランを作った以上、次に実行していく中ではなるべく成功例を作りながら、その成功例をもとにして社会の様々なところに広げていくことが重要なと思います。

私も日本で40年間生活する中、そのほとんどを愛知県で過ごしてきましたが、愛知県は非常に素晴らしい県であるだけけれども、今日グレン委員が少し話をされたように、やはりその良さが外国には十分伝わっていないと私はつくづく感じます。それは言語だけの問題なのか、発信の仕組みまで入る問題なのかということを考えるべきだと思いますが、1つ具体例を申し上げますと、私、今スリランカでIT人材の育成をしていますが、彼らに日本を紹介しようと思っても、日本よりもっと優遇された形で採用

したいという国はいくらでもあるんです。日本はもうスリランカから見ても、IT人材にとってはそれほど魅力がないということに驚きました。ですが他方で、なんとか愛知県あるいは日本全体を次の段階に持っていくためには、国際化というキーワードがとても重要ではなかろうかと考えています。

ですので、その実行に当たりまして、我々委員もできる限り支援していけることがあれば、私個人もさせていただきたいなと思います。

どうもありがとうございました。

<鮎京座長>

ありがとうございました。それでは遠藤委員をお願いします。

<遠藤委員>

3回に渡り本当にありがとうございました。私もこの冊子の中身が非常に充実して、わかりやすい良いものになったと思っております。

委員の皆さんがそれぞれ実行面のコメントをされていましたが、私も、これを動かしていくために県庁の皆さんが営業マンとして国際化の実績を積み上げていく必要があると思います。先ほど職員の国際感覚という話もありましたが、私どもの組織にも職員を派遣していただいて、そういう機会をできるだけを提供しているところです。

また冊子の中にもありましたが、愛知県は過去に大きな国際会議を結構やられています。「COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）」や「Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議）」などといった実績もあり、2022年以降もスポーツの大きなイベントもありますけども、こういった国際会議をさらに開催していただきたいなと思います。そのためのキーは、それぞれ職員が営業マンになってどういったものが誘致できるのかを考える、そういうところは各職員の方々の国際社会とのコミュニケーション能力にかかっています。我々も愛知県の国際イベントを国際機関の活動にぜひつなげたいと思いますし、この計画期間内にそういったことが実現できるようになってくれると良いなと思います。

最後に、私も3回参加させていただいて、特に、愛知のブランド力に関する議論は、大変勉強になりました。いろんな視点が各委員からお話がありましたが、広報戦略を国際に掛け合わせるというところでは、私も今SDGs関係の仕事でやっています。今でこそSDGsも大々的に注目されていますが、最初の段階では、日本で流行った「ピコ太郎」や「ハローキティ」などのキャラクターをニューヨークまで連れて行って国連に参加させたりしていましたが、すごく効果がありました。日本政府を挙げてSDGsの実施をやっているということもありますけれども、自治体レベルでSDGsを浸透させていくということを考えると、ブランド力をどのように磨いて打ち出していくのかは重要です。愛知県のブランド向上に関しても、何か良いキラーコンテンツを世界に発信できればなと思います。その時に、これは使う上で制約もあるようですが、ジブリパークは何か1つの発信材料になると思います。ブランド力を上げていく取組は試行錯誤しながらやっていけば、どこかで花開くのではないかと思います。我々も国際機関等のネットワークがありますので、それを使って役立てるように頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

<鮎京座長>

委員の皆様方、ありがとうございました。

最後に、私の方から3回に渡った検討会議全体を簡単にまとめておきたいと思います。第1回目の会議におきまして、山田委員を始め委員の皆様方から、単に静態的にあいち国際戦略プランを書くのではなく、5年ならば5年でどういうところまで持っていくのかという極めて実践的な視点が示されたことが、非常に意味があったのではないかと思います。あいち国際戦略プランということ自体、極めて内容が多岐に渡り重層的な課題であるわけですが、今日委員の方々からお話していただいたように、こういった形で案がまとまり、私としては大変良いものできたと考えております。

その要因はいろいろあるのですが、この検討会議の委員が、様々な分野の方々から構成されており、多面的にこの国際戦略プランを議論することができたということが1つ。

それからもう1つの大きな理由は、事務局の方々が非常に丁寧に仕事をしてくださって、懸命の努力をしてくださったことで、こういった案としてまとまったのではないかと考えております。その意味で、座長として私は委員の方々、そして事務局の方々に、心より敬意と感謝を申し上げたいと思います。

それでは、「次第4 その他」について事務局からお願いをいたします。

<沼澤政策企画局長>

すみません。その前に、ジブリパークに関するご質問に関してお答えいたします。

委員の皆様、ありがとうございました。先ほど「愛・地球博記念公園」と、その中にある「ジブリパーク」とがどういった関係にあるのかというご質問がありました。行政的な、許認可的な意味で言いますと、有料のチケットがないと入れないエリアを「ジブリパーク」と呼んでいます。あの公園自体は200ヘクタールあります。そこで、2005年に愛知万博を行いました。一方で、そのうちジブリパークは3.5%だけの面積となっていて、加えて一期オープンでは半分しかオープンしていません。来年度末、2024年の3月にはフルオープンして、それでも3.5%というのが行政的な観点からの区分けであります。

ただ、万博の理念が自然の叡智であったということ踏まえて、ジブリの中でも自然や命に対する敬愛というものが、通底するものがあります。その上で申し上げますと、「愛・地球博記念公園」は200ヘクタールありますがほとんど山と林なんですね。実際に公園にお越しいただくと、割とジブリエリア広いなと思われたかもしれません。しかも、来年度の終わりにはさらに倍に面積が広がりますので、お越しになった人の印象としては、公園の半分くらいはジブリだという印象を持つ方もいらっしゃると思います。

それと、楽しんでいただける工夫として、無料のエリアであっても、例えばジブリのちょっとしたオブジェが置かれていたりとか、そこにあるガス灯がジブリの意匠を汲んでいたりとか、行政的な意味での区分けとは別に、公園全体にジブリっぽい雰囲気があるようになっていくと。「ジブリっぽい雰囲気のある、かつて万博が行われた公園」という感じに移り変わっているところだと思っています。というのが事実関係です。

その上で、どこまで明確に「愛・地球博記念公園」と「ジブリパーク」とを区別して発信していくかということですが、何となく公園全体がジブリパークな印象を持ってもらうというのも方向性としてあ

るのかなと思っていたりしています。

いただいたご意見はおっしゃるとおりなんですけども、そのわかりにくさをどちらの方向で広報していくかということがあるかと思いますので、そこは今後よく考えたいと思います。

<横山委員>

要するに、英語にすると「Park in Park」ですよね。その辺りの整理が海外に発信する時にどうなんだろうってことを思って発言させていただきました。日本語でジブリパークと表すと何となく良いんですけど、これを英語で書くとどういうことかという話になってしまうので、そこを整理された方が良いのではないかという話です。

<沼澤政策企画局長>

今後の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

<鮎京座長>

今の話は非常に重要で工夫がいると思いますが、よろしくをお願いします。

それでは、「次第4 その他」について事務局からお願いをいたします。

#### 4 その他

<木俣国際課長>

それでは、私の方から今後の進め方及びスケジュールについて説明をしたいと思います。

こちらにつきましては、この後、県民の皆様からの意見募集や庁内の手続きを経まして、年内にプランを完成し公表したいと思っております。意見募集、パブリックコメントでの意見につきましては、座長と相談の上対応させていただきますのでよろしくお願いいたします。プランが完成しましたら、委員の皆様のお手元にもお届けしたいと思っております。

<鮎京座長>

ありがとうございます。

以上で予定しておりました議題等はすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

<木俣国際課長>

どうも、ありがとうございました。

それでは最後に沼澤局長からお礼のあいさつを申し上げます。

<沼澤政策企画局長>

政策企画局長の沼澤です。皆様どうもありがとうございました。オンラインですので、着座であいさつさせていただきます。

本日はお忙しい中、また、お昼の時間帯に関わらず、お集まりいただき、また、熱心にご議論いただ

きましたこと、心より感謝申し上げます。

次期プランの策定に当たっては、委員の皆様それぞれのお立場から、大変貴重なご意見をいただきました。今日また新たなご意見をいただきまして、それを踏まえて取りまとめたいと思います。そのおかげを持ちまして、ひとまず今後5年間の本県の国際戦略の道筋を示すことができたと考えております。今後は、先ほど事務局から申し上げましたとおり、詰めの作業を行い年内に完成させたいと存じます。

改めて申し上げるまでもございませんが、策定したプランを適切に実行していくことが重要です。海外との往来もようやく新型コロナウイルス前の状況に戻りつつあると思っております。11月に開園するジブリパークや、先ほど話題に出た STATION Ai、愛知県新体育館、それを使ったアジア・アジアパラ競技大会といった大型プロジェクトが今後5年間で様々あります。こういったことを始め、これから5年間で実施をしていく事業について、最大限効果をあげることができるよう、県庁の関係部局はもとより、大学や経済界などの関係機関ともしっかりと連携して取り組んでまいりたいと考えております。

こうした事業を積み重ねていくことで、プランの目指す「世界と行き来するヒト・モノ・カネ・情報により成長を続ける愛知」を実現してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今回のプランの策定に多大なるご協力をいただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。

また、来年度以降、プランを推進して行くにあたって、ぜひお力添えをいただければ幸いです。本当にありがとうございました。

<木俣国際課長>

それではこれもちまして、第3回あいち国際戦略プラン検討会議を終了とさせていただきます。委員の皆様、長時間に渡りありがとうございました。

第3回あいち国際戦略プラン検討会議 出席者名簿

(敬称略)

	氏名	団体・役職名	備考
委員	鮎京 正訓	愛知県公立大学法人理事長	座長
	遠藤 和重	国際連合地域開発センター所長	
	増田 智子	ジェットロ地域統括センター長 (中部) 名古屋貿易情報センター所長	
	山本 いずみ	名古屋工業大学留学生センター長	
	横山 陽二	東海学園大学客員教授	
	アーナンダ・クマール	名城大学名誉教授 ランカ日本ビズテクインスティテュート学長	オンライン 参加
	クリス・グレン	有限会社パスト・プレゼント・フューチャー代表取締役 インバウンドアドバイザー	オンライン 参加
	山田 強	豊田通商株式会社経営企画部長	オンライン 参加
愛知県	沼澤 弘平	政策企画局長	
	佐治 幹夫	政策企画局国際監	
	木俣 功年	政策企画局国際課長	
	一井 誠	政策企画局国際課担当課長	